全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策　　教科名　国語　　小１５　練馬区立南町小学校

学　年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
1　年	・場面の様子などについて、想像を広げながら読むことや、内容について考えながら声に出して読むことの指導が不十分である。 ・語と語、文と文との続き方に注意しながら書くことについての指導に課題がある。	・ペアでの動作化や、劇化を取り入れながら授業を進める。 ・役割読み、交互読み、一人読み、数人読み、動作化などの多様な読む活動を入れる。 ・作品世界を楽しむためにいろいろな挿し絵を用意する。 ・書く目的を明確にし、話型を提示したり、ワークシートやカードを活用したりする。	・毎日の音読を欠かさずできるように、家の人にサインの協力をお願いする。 ・群読発表会に向けて群読の練習に取り組ませる。 ・題材を工夫して、書く活動を日常的に行う。教師のコメントを入れることで、書くことの楽しさを味わわせる。 ・図書の時間などに本の読み聞かせを行い、本の世界の楽しさを味わわせる。
2　年	・主語と述語の整った文を書くことや、書きたい事柄を明確にして順序よく書くことについての指導の工夫が必要である。 ・文の正しい表記、漢字の習得が課題である。 ・聞くことについて苦手意識をもつ児童が多い。話の内容を正確に聞くように指導する必要がある。	・短文を書く活動、書く事柄をカードにして順序や組み立てを考える活動、テーマに沿って書く活動を多く設定する。書いた文章を読み合う活動を取り入れ、次の書く活動に活かせるようにする。 ・促音・拗音などの正しい表記と、既習の漢字の復習を繰り返して行う。	・音読カードを配布し、毎日音読に取り組ませる。 ・家庭学習で日記に取り組ませ、文章を書くことに慣れさせると共に、文章中でも漢字が使えるようにする。 ・漢字テストを毎週行う。
3　年	・文章の読み取りが苦手な児童がいる。 ・文章の内容を考えたり、構成を考えたりして文章に表すことが苦手な児童が多く、個別指導が必要である。 ・自分の考えを話すことが苦手な児童がいるので、話題や場の設定に工夫が必要である。 ・漢字の練習に十分時間がかけられず習得が課題である。	・文章の流れ、構成などの読み取りを正しくできるように、ワークシートや教科書の書き込みなどの指導を取り入れる。指示語が示している語を探したり、接続語に着目して文章全体の流れをとらえたりする活動を丁寧に行う。 ・書く活動では興味関心がもてるような課題設定をするとともに文章の構成がまとめやすいように、ワークシートやカードを使った指導を行う。 ・少人数グループの中で話す聞く活動を多く取り入れる。話すためのメモを作らせたり、練習の場を設定したりして自信をもって話せるようにする。 ・新出漢字の練習だけでなく文作りや熟語作りに取り組ませる。	・日常的な読書指導を続けると共に、毎日の音読に取り組ませる。 ・国語だけでなく総合的な学習の時間など他教科でも調べたことをまとめたり、感じたことを書いたりする機会を多く設定し、文章を書く指導を繰り返し設定する。 ・朝の会でスピーチや質問・感想を言う機会を取り入れる。 ・毎日漢字の学習の課題を出し、ノートを点検する。またモジュール時間に漢字のテストを行い、間違えた字を練習させる。 ・短作文やメモなどの際、既習の漢字を使うように自分で校正する習慣をつけさせる。 ・国語辞典の活用や読書など文字や言葉に触れる機会を増やす。

4　年	・話すこと・聞くことに対して苦手意識をもつ児童が多い。聞くことについては、話の内容を正確に聞くように指導する必要がある。また、話すことに関しては、自分の考えを簡潔に話すことを意識させることが大切である。 ・読解では、文章や段落の内容を正確に読み取ることが不十分である。 ・段落相互の関係に注意して文章の構成を考えて書くことが不十分である。 ・新出漢字の習得に大きな差が見られると共に、既習漢字の習熟が不足している児童も多い。	・目的を明確にしながら話したり聞いたりすることができるような題材を設定し、授業の中で意図的に話したり聞いたりする場を設定する。 ・要点や構成などの読み取りが正しくできるように、要点や他の文章の役割を考えさせたり、段落の見出しを考えたり、要点同士を比較したりしながら構成をとらえる指導をしていく。 ・「はじめ・中・終わり」のまとまりを意識させてから書くように指導をしていく。 ・新出漢字と既習漢字の習熟を図るべく、フィードバックを重ねて指導していく。	・朝の会等で、日直のスピーチを行う。事前にメモを書くなどして自分の考えを簡潔に伝えるように指導する。 ・毎日の音読宿題は、家の人への協力を依頼し、内容を把握しながら読む習慣を付け、読解力の基礎を固める。 ・「はじめ・中・終わり」を意識した作文メモを作成してから文章を書く。また、書いた文章を読み直すことを習慣化する。 ・漢字練習・漢字テストを計画的に取り入れる。そのために、毎日漢字の学習の課題を出し、ノートを点検する。漢字テストの勉強の仕方を例示する。モジュールの時間を活用し、習熟を図る。
5　年	・話すこと・聞くことに対して、特に聞くことに課題をもつ児童が多い。話し手の意図をとらえながら聞いたり、何が話の中心かを意識したりして、聞くように指導する必要がある。 ・説明文の読解で、要旨を捉えながら読むことが十分でない。 ・適切な言葉を使うことが苦手な児童が多く、言語事項に対する理解度が低い。既習の漢字の定着が不足している児童も多い。	・目的や意図を明確にしながら話したり聞いたりすることができるような題材を設定する。聞いたことを再度話したり、できる限りで共有したりする場を設ける。 ・文章の構造に着目させ、筆者の考えを捉える学習を繰り返し、丁寧に扱っていく。 ・国語辞典で言葉の意味を調べ共有するなど的確に言語事項を理解させる。	・今後、国語の時間だけでなく、スピーチ活動、総合的な学習の時間や他の教科などで発表し合う場や評価する場を設定する。 ・漢字や言葉のきまりに関する小テストを計画的に取り入れる。また、反復練習も行うようにする。 ・学年に応じた読書活動の推進や分からない言語の意味調べなども適時に行うようにする。
6　年	・話すこと・聞くことに対する苦手意識をもつ児童が多い。話の中心を意識して話をすることが必要である。また、正確に聞き取り、自分の考えをもち、比較しながら自分の考えを発信する機会も多く必要である。 ・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることに課題がある。 ・話の内容を要約したり、自分の考えを表現したりすることが苦手な児童が多い。	・目的や意図を明確にしながら話したり聞いたりすることができるような題材や時間を設定する。自分の伝えたいことが伝わっているかどうかを確かめる場を設定する。 ・単元の終わりのまとめの言語化を全体で共有し価値付ける。 ・新聞記事等を要約し、自分の意見を述べる活動を授業やモジュールの時間に行う。	・国語の時間だけでなく総合的な学習の時間など他の教科などでも調べ学習や互いに発表し合う場を設定する。 ・書いたものを読み合う活動を取り入れ、自分の考えを広げ深められるようにする。 ・学年に応じた読書活動の推進や分からない言語の意味調べなども行うようにする。 ・新聞記事やタブレット等を効果的に使い、自主学習を含め主体的な活動を促している。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策　　教科名　社会　　小１５　練馬区立南町小学校

学　年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
３　年	・練馬全域の地形・人口・農業などの学習となると児童の経験に個人差があり、教材が乏しく、課題となった。 ・地図やグラフなど、資料の見方を身に付けさせる指導の工夫が必要である。 ・コロナ禍の影響で、校外学習などの活動を行えないことで、社会の実態を児童自身が持ちにくい。	・タブレットや電子黒板を使用し、写真やビデオ、グラフや表などの資料を適切に提示するとともに、調べ学習を通じて資料を集めたり、体験的に学習できるようにする。 ・地図や資料から読み取れることを授業を通して発見させるとともに、相互に関連付けた見方ができるよう、ICT機器などを活用して提示の仕方を工夫する。	・図書館や史跡めぐり、ICTの活用を勧めたり、外部講師、地域の方の話など人材を活用したりする。 ・社会科で学習したことを総合的な学習の時間での課題作りに生かし、調べて分かったことを社会科の学習につなげるようにするなど教科横断的に学習するようにする。
４　年	・ゴミの処理とリサイクル、くらしと水（上・下水道）、文化財や年中行事の学習では、実生活に身近な施設、事物等を教材として活用できるが、ダム、地形など、資料を活用した学習では、展開の仕方に課題がある。 ・都道府県の様子についての知識・理解に課題がある。	・ゴミの学習ではふれあい環境学習と社会科見学を、上水道では水道局の方々による実習を、文化財や年中行事ではビデオや写真資料を、活用していく。 ・与えられる資料だけでなく、児童や保護者、地域の方々に資料の提供をお願いしていく。 ・都道府県について資料を活用したり白地図にまとめたりして調べさせるようにする。	・家庭でのゴミの出し方や集積所について調べてくるように勧めたり、新聞折り込みの水道局のニュースや都の施設の新聞を収集したりするようにして、関心をもたせていく。 ・社会科で学習したことを総合的な学習の時間での課題作りに生かし、調べて分かったことを社会科の学習につなげるようにする。
５　年	・問題解決に必要な能力（観察力・資料活用力・思考力・表現力・判断力など）を育てる必要がある。 ・自分の身の回りとの関わりが薄い学習内容が多く、児童の興味関心に差がある。ニュースや新聞等の情報と結びつけて捉えさせたい。	・学んだ事実を根拠にして考え合い、表現し合う学習場面を適宜設けていく。 ・学習を通して獲得した知識や身に付けた力などについてのふり返りをしていく。 ・調べ、考えたことを共有する時間を設け、多様な見方、考え方ができるようにする。 ・ニュースや新聞等の情報を紹介したり、児童が調べたりする機会を多く設ける。	・学習したことからさらに知りたいことや調べてみたいことを見付け出し、主体的にに調べられるようにする。 ・社会新聞を作る作業などを通して理解を深める。
６　年	・歴史学習の中で、子供たちが興味をもったところを掘り下げて学習していくための時間がない。地域性や総合的な学習の時間のテーマとの関わりをもとに軽重を付けていく必要がある。 ・政治に関する興味・関心が低い。	・歴史学習での基礎・基本となる知識的事項を明確にし、確実に身に付けられるようにする。 ・学習のねらいに応じた資料（写真や絵）や出前授業による選挙体験等を通し興味・関心を高めるとともに理解を深めるようにする。 ・実際の選挙活動、国会や税金に関する資料を活用し、新聞づくりなどまとめる活動を通して、政治のはたらきを身近なものとして実感させる。	・社会科資料集やタブレットを活用し、分からないところを補い、理解の定着を図る。 ・問題解決学習を通して、主体的、体験的な学びになるように、１時間の授業や指導計画を見直していく。 ・自主学習、自由研究を活用させながら歴史新聞を作るなどの主体的な活動を通して理解を深める。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策　　教科名　算数　　小１５　練馬区立南町小学校

学　年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
１　年	・問題場面を理解し、解決するための思考力や技能の差が大きいので、問題場面の提示の仕方に工夫が必要である。 ・数領域での経験や、計算技能の習熟度に差が見られ、個別指導が必要である。	・各種の教具を有効に利用して、習熟を試みる。（情景図、半具体物など。） ・直接対応や間接対応の操作活動を取り入れ、対応の考えのよさに気付かせる。 ・基礎基本の時間を活用して計算力の基礎を身に付ける。	・課題達成が不十分な児童には個別指導を徹底して行う。その際、具体物や半具体物を使うなど、教材・教具を工夫する。数ブロック等のスムーズな操作方法を教える。 ・ねらいにあった文章題作りを取り入れる。
２　年	・「長さ」「水のかさ」「時こくと時間」の領域では、習熟に差があり、個別指導が必要である。 ・問題解決の方法の見通しがもてない児童が多いので問題提示の仕方に工夫が必要である。	・生活の中で長さや水のかさの量感や時刻や時間を意識させ、定着させる。 ・具体物を用いた個別指導を行う。 ・問題文を把握しやすいように、絵や図に整理したり、言葉で説明したりする活動を取り入れる。 ・基礎基本の時間を活用して計算力の基礎を身に付ける。	・課題達成が不十分な児童には、個別指導を徹底して行う。その際、具体物を使うなど、教材・教具を工夫する。 ・ねらいにあった文章問題を解いたり文章題作りを取り入れたりする。
３　年	・「測定」「数と計算」の領域では、習熟に差があり、個別指導が必要である。また、計算に関しては個人差があるので、練習時間を確保する必要がある。 ・問題解決のための方法や結果の見通しをもって取り組める児童が少ないので問題提示の仕方を工夫する。	・「測定」では、時刻と時間の違いや時計の読み方など基本事項を押さえ、日常生活の中でも意識をさせ、定着を図る。 ・習熟度別指導により、一人一人の課題をノートや発言から把握し、個別指導に活用する。 ・問題解決の過程を図や文に表したり、言葉で説明したりする活動を取り入れる。 ・小グループでの話し合い形式を活用する。 ・基礎基本の時間に、習熟度別の児童の実態に応じた計算問題を実施し、計算力を高める。	・課題達成が不十分な児童には、個別指導を徹底して行う。その際、具体物を使うなど、教材教具を工夫する。 ・ねらいにあった文章問題を解いたり、文章問題作りを取り入れたりする。 ・年度始めの１時間を使って、ノート作りの基準を示す。また、学期の始まりにも、確認をする。
４　年	・「数と計算」「図形」の領域では、習熟に差があり、個別指導が必要である。また、計算技能でも習熟に差があるので、個に応じて練習時間を確保する必要がある。 ・既習事項を問題解決の場面に適用することが難しい児童が多い。課題を整理して解決への見通しをもつ力を育てる必要がある。	・「数と計算」では、数量がイメージしやすいように、視覚化したり、読みやすいように印をつけたり、教材教具を活用し、児童の実態に応じた学習を行う。 ・作図は教具の整備を含めて指導する。また、動画を有効活用し、個別に指導をする。 ・問題解決の過程を図や文に表したり、言葉で説明したりする活動を取り入れる。 ・小グループでの話し合い形式を活用する。 ・基礎基本の時間に、習熟度別の児童の実態に応じて計算問題を実施し、計算力を高める。	・課題達成が不十分な児童には、個別指導を徹底して行う。 ・クラスにより適宜知識面の振り返りの時間を入れることで知識の定着を図っていく。 ・年度始めの１時間を使って、ノート作りの基準を示す。また、学期の始まりにも、確認をする。ノートは、自分の考え、友達の考え、学習感想を書く場として比較検討、新たな問題解決への手がかりとして活用させる。
５　年	・「図形」の領域では、作図の技能差や単位換算の習熟に差があった。 ・「数と計算」の領域では、計算技能に差があり、小数が入るかけ算、わり算、繰り上がりのある足し算、繰り下がりのある引き算等個に応じた指導が必要であ	・その都度、その学習に立ち戻りできるようにしていく。 ・立式する際の根拠となるもの（図、絵、数直線、言葉など）をかかせるようにする。 ・式の意味を説明させる。 ・自力解決をした後、単元や習熟度別クラスに応じて、	・課題達成が不十分な児童には、習熟度別学習時や授業時間外に個別指導を行う。 ・計算ドリルを活用し、分からないところに立ち戻り学習する。 ・実物を見せたり、作ったりする体験活動を取

	る。 ・数や量の概念、答えに見通しをもつ力に欠け、何となく立式して答えを導こうとする児童がいるので、根拠や理由を明確に表現する力を育てる必要がある。 ・既習内容を生かして考えを導くということが苦手な児童が多いので、既習事項を想起できるよう工夫する。	対話的な活動を十分に確保する。 ・既習事項を想起できるような手だてを取り入れる。 ・基礎基本の時間に、習熟度別の児童の実態に応じて計算問題を実施し、計算力を高める。	り入れる。 ・日常事象と関連のある問題を用意する。 ・年度始めの１時間を使って、ノート作りの基準を示す。また、学期の始まりにも、確認をする。ノートは、自分の考え、友達の考え、学習感想を書く場として比較検討、新たな問題解決への手がかりとして活用させる。
６　年	・「数と計算」「変化と関係」の領域で、習熟に差があった。 ・習熟度別クラスによるが、自分の考えを発表して友達の意見も聞いて考えを深め合えるところもあれば、基本的事項の理解が不十分でそこまでいけないクラスもある。 ・答えを出すことだけに目が向いてしまい、問題解決の過程を丁寧に扱えるよう、自力解決の時間や互いの考えを交流する時間を確保する必要がある。	・自力解決をした後、単元や習熟度別クラスに応じて、対話的な活動を十分に確保する。 ・その都度、その学習に立ち戻りできるようにしていく。 ・立式する際の根拠となるもの（図、絵、数直線、言葉など）をかかせるようにする。 ・式の意味を説明させる。 ・自力解決をした後、単元や習熟度別クラスに応じて、対話的な活動を十分に確保する。 ・基礎基本の時間に、習熟度別の児童の実態に応じて計算問題を実施し、計算力を高める。	・課題達成が不十分な児童には、習熟度別学習時や授業時間外に個別指導を行う。 ・立式する際の根拠となるもの（図、絵、数直線、言葉など）をかき、既習事項を生かして課題解決させる。 ・日常事象と関連のある問題を用意する。 ・年度始めの１時間を使って、　ノート作りの基準を示す。また、学期の始まりにも、確認をする。ノートは、自分の考え、友達の考え、学習感想を書く　場として比較検討、新たな問題解決への手がかりとして活用させる。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策　　教科名　理科　　小１５　練馬区立南町小学校

学　年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
３　年	・身近な自然への興味・関心を高くもっているが、観察・実験の基本的な技能面で個人差がある。観察の際に視点を明確にして指導に当たる必要がある。 ・科学的な思考では、生活経験と結び付けて検討する指導が必要である。	・授業のめあてを授業の最初に確認する。 ・観察のときに観点を示し、それに沿って記録できるようにする。継続的に観察する機会を取り入れる。（タブレットの活用） ・実験では、観点を示し、測定したり、比較したりしながら調べていく技能を確実に身に付けさせる。実験結果から分かることを記録する習慣を身に付けさせる。	・観察・実験の時間を十分に確保し、一つ一つの学習内容を丁寧に指導することで、基礎事項の定着を図る。 ・自然観察では、タブレットを活用し、詳しく観察したり、季節の変化を確認したりすることで個に応じた指導を行う。 ・ものづくりの学習を多く取り入れる。
４　年	・実験に対して興味・関心は比較的高く、よく取り組むが、観察・実験の技能の面で個人差があるため、個別指導をする必要がある。 ・科学的な思考では、生活経験と結び付けて検討することに重点を置いた指導が必要である。	・計画的に観察・実験ができるように、学習のねらいを適切につかめるよう導入を工夫する。 ・ノートや観察カード、授業中の発言で個々の理解の程度を把握し、指導に生かす。 ・児童が深く思考する発問を工夫をし、考える時間を確保して発表の場を多く設定する。	・自然観察に関して、その単元の間だけでなく年間を通して観察できるようにし、違いに気付かせる。 ・ものづくりの学習を多く取り入れる。 ・課題への興味・関心を高める視覚資料の掲示に努める。
５　年	・自然事象への興味・関心は比較的高く、特に実験にはよく取り組む。 ・科学的な思考では、考える力を養う指導の工夫が必要である。特に実証性・再現性・客観性など条件を検討する手続きを取り入れて、解決させる必要がある。	・既習事項や生活経験を基に予想を立て、その検証方法を考えさせる場面を設定する。 ・考察の仕方の文例を示し、筋道立てて述べる方法を理解させる。書いた考察をもとに伝えたり、比較したり、違いを検討したりする場を設定する。 ・自然に目を向けやすくなる手だてを取る。	・単元の終わりに、振り返りの学習や発展学習を行う。 ・ミニテストなどを実施し、基礎事項の定着を図る。 ・体験的な学習を取り入れる。 ・動画資料など ICT 機器を活用し、不足しがちな体験を補う。
６　年	・自然事象や実験に対しての興味・関心が高いが、なぜその実験をする必要があるのかを考えられる児童は少ない。 ・知識・技能の面で、基礎的な点を確実に身に付けさせる必要がある。 ・理科の「見方・考え方」を働かせて、考える力を養う指導の工夫が必要である。	・問題を見い出し、予想・仮説・検証し、問題解決的な学習になるように指導方法を工夫する。 ・ノートに自分の考えを書き、それをもとに話し合いをさせる場を多く設定する。 ・理科の「見方・考え方」を意識させ、問題解決させたり、対話させたりする。	・場面に応じて追究実験をしたり、タブレットを活用した検証を行ったりし、理解の定着を図る。 ・思考の高まりが見られる発言や理科の「見方・考え方」を働かせたノートを価値付け、全体で共有する。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策　　教科名　生活科　　小１５　練馬区立南町小学校

学　年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
１　年	・児童の思いや願いを大切にして活動をさせていきたいが、一人一人の思いや願いを把握し、活動計画にいかしていくことが十分にできていない。	・単元の導入時に児童の興味を十分に喚起し、児童の思いや願いをもとに学習を展開する。題材や活動を選択できるようにしたり、グループでの交流を多くしたりして、児童が自ら活動できるようにする。	・幼稚園や保育園との交流を取り入れる。手作りのプレゼントを送ったり、普段の様子を知らせ合うなどの活動を行う。 ・自分で育てた花の成長を楽しんだり、他の植物にも興味を広げたりできるようにする。 ・家庭とも連携し、日常の生活体験を充実させる。
２　年	・意欲的に学習し活動を楽しむ児童が多いが、自ら工夫させたり、人や社会、自然と自分との関わりに気付かせたりする指導は十分にできていない。	・児童が気付いたことを伝え合い、認め合う場面を多く取り入れることによって、さらに新たな気付きを生み出せるようにしたり、気付きの質を高めたりできるようにする。	・地域の公共施設や自然に関心をもたせ親しみや愛着がもてるように働きかける。 ・１年生との交流を取り入れ、「つくってためして」で１年生を招待する活動を行う。 ・家庭とも連携し、日常の生活体験を充実させる。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策　　教科名　音楽　　小１５　練馬区立南町小学校

学　年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
１　年	・多くの児童が友達と一緒に歌ったり、拍の流れにのって身体表現したりする活動を楽しんでいるが、十分に活動できない場面もみられる。意欲喚起や個別指導が必要である。	・手拍子、リズム打ち、身の回りの音探し、友達の歌や演奏をまねするなど、ペアや小グループでふれ合いながら活動の幅を広げ、音楽への関心を高める。 ・音楽に合わせて、歩く、止まる、走る、跳ねるなどの学習を日常活動にも取り入れていく。	・鍵盤ハーモニカの奏法を繰り返し確かめ、簡単な旋律を楽しみながら演奏できるようにする。 ・わらべうたを学習教材に取り入れることで、いろいろなリズム、身体表現を体験させる。
２　年	・どの活動にも意欲的に取り組む児童が多い。 ・拍にのってリズムをうったり、楽器を演奏したりすることが得意な児童が多い。 ・鍵盤ハーモニカの学習では、技能差が大きく、なめらかに演奏することが難しい児童が各クラス数名いる。	・さらに意欲を伸ばせるような課題を設定し、主体的に活動できるよう工夫する。 ・段階的な課題を設定し、演奏が難しい児童には個別指導の時間を設ける。	・鍵盤ハーモニカがなめらかに演奏できる児童はみんなの前で演奏するなど、発表の機会を設ける。また、難しい児童は課題の範囲を狭めて「できた。」と思える回数を増やしながら、技能を高めていく。
３　年	・表現を工夫したり、音楽づくりを協力しながら完成させたりすることが得意な児童が多く、ほとんどの児童が意欲的に取り組んでいるが、意見を出したり、友達の意見を受け入れたりすることが難しい児童も数名おり、グループ活動がうまく進まないことがある。 ・技能が高い児童も多く、リコーダーの練習も家庭でも取り組むなど意欲的な児童が多くいるが、意欲や技能が低い児童も数名いる。	・活動時間にゆとりをもち、試行錯誤する時間を多くとる。また、グループ編成を工夫し、大人が介入しながら成功体験を増やし、経験を積んでいく。 ・意欲や技能が低い児童には、段階的な課題を設定し、授業時間外に個別指導を行い、達成感を味わえるようにする。	・技能が高い児童には、チャレンジ課題を設定し、発表の機会を作るなどして、満足感を得られるようにする。また、難しい児童は課題範囲を狭めて、達成感を味わわせながら技能を高めていく。

4　年	・表現活動では、意欲的に取り組む児童が多く、音楽を作ったり、表現を工夫したりする活動では、様々に試す姿が見られる。 ・鑑賞活動では、知覚・感受したことを自分の言葉で言い表すことが難しく、語彙が少なかったり、自分の意見を発表することが難しかったりする児童が多い。	・他学年や他クラスの鑑賞活動で出た言葉を提示し、語彙を増やすと共に、自分の意見をしっかりもてるよう、 ワークシートを工夫していく。	・鑑賞活動だけでなく、表現活動でも、積極的に言語活動を取り入れ、音楽の言葉を使えるように指導していく。
5　年	・ 表現活動では、技能が身に付いていても曲想に合った音色で演奏することが難しい児童や苦手意識が強い児童が多くいる。	・学校で活動が制限されている学習については、家庭で取り組めるよう課題を設定する。また、範奏を聴く機会を多く設け、美しい音色を耳で覚えられるようにする。	・休み時間等の、一斉学習以外の時間を使って技能を高めていく。 ・家庭でも学習に取り組めるような課題を出し、技能向上につなげる。
6　年	・音楽から、いろいろなことを聴き取ったり、感じ取ったりすることができ、自分の言葉で表現することが得意な児童も多い。また、どのように表現するか考えたり、その方法を考えたりできる児童もいる。しかし、それらを発表したり、手本として演奏したりすることには消極的で、自信をもてない児童が多くいる。	・児童から出た意見を共有しながら、自己表現が苦手な児童が参考にできるようにしていく。 ・録音・録画をして、客観的に演奏を振り返るようにする。	・発表の機会を増やし、互いにたくさん褒め合い、自信をもてるようにしていく。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策　　教科名　図工　　小１５　練馬区立南町小学校

学　年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
１　年	・材料や用具を使う際、これまでの経験の程度が、意欲関心に影響している様子が見受けられるので、個々に対応した指導が課題である。	・児童のつまづきを机間指導で見取り、記録し、支援方法を構想して指導していく。 ・相互鑑賞を行って友達のよさを見つけると同時に、自分の表現のよさにも自信をもたせる。	・教科書を活用してヒントコーナーの提示を行い、発想や工夫のポイントに気付かせていく。 ・児童の取り組み状況に応じて、補助題材、関連題材、発展題材を提示する。（また、提示できるよう準備を行う）
２　年	・活動する前からできないと発言し、自分でやらず、すぐに教師や友達に頼ろうとする子が数名見受けられる。 ・生活経験の差や発達段階の違い等により、題材理解・技能において個人差が大きい。 ・個々への対応、特に活動の見通しが立たない子、取りかかりが遅い子、飽きてしまう子への支援が課題である。	・自分で進められるよう、取り組みに集中できるように場の設定や、座席の工夫をする。自分で行う楽しさを感じられるように声かけをしていく。 ・素材・描画材との関わりを深めるため、様々な分野の題材や多様な方法を扱う。 ・活動の見通しが立たない子などのつまずきを発見し、支援方法を探るため、机間指導の充実と毎時の記録を行う。 ・飽きてしまう子には、興味・関心をもたせる言葉かけを個々に行う。また、補助題材を用意しておく。	・担任との連携を深め、児童理解に努めるとともに、造形への関心・意欲を高めるためにも、取組への振り返りを各題材で行う。 ・ワークシートを活用する。（スモールステップのワークシート、振り返りのワークシート、制作補助のワークシート、発展のワークシートなど） ・題材が終わった児童が取り組めるような関連題材、補助題材を用意する。
３　年	・安全への意識が十分でなかったり、用具を適切に扱うことが十分にできなかったりする児童が数名見受けられる。 ・絵画題材において、発想の広がりや深まりが少ないと感じる。題材の提示方法が適切だったか、児童の意欲を喚起する題材であったか、検討する必要がある。	・用具を扱う際の留意事項を、毎時確認する。 ・取り組みやすいような環境整備（安全に関する掲示物、机の配置、物品の移動、児童の動線の確保等）を行う。 ・題材提示の見直しを行う。発想の補助となる参考作品の提示を行う。 ・題材自体の見直しを行う。 ・個別に児童の取り組み状況を観察し、手が進まない理由・状況を把握する。	・用具の扱い方についての、検定のようなものを用意し、上達を促すとともに意欲を喚起する。 ・友達の取り組みや作品を見合いながら、アドバイスし合える場や雰囲気をつくる。 ・題材が終わった児童が取り組めるような関連題材、補助題材を用意する。
４　年	・様々な材料から使いたいものを選んだり置き換えたりしながら表現する際、材料の特徴（形・色・質感）を生かす能力に個人差が大きい。材料	・前学年までに、様々な材料に触れる機会を増やす。 ・事前にいろいろな材料について確かめ合い材料集めの段階から個別に対応する。	・材料の特徴について分かりやすい表示を作る。 ・材料紹介のミニコーナーを設定する。（常設と授業内との２種類）

	を自ら選んで、工夫して使おうとする段階に要因があるように思われる。それぞれの段階において、個々への対応が課題である。	・友達と話し合ったり、楽しさを共有し合ったりしながら、自分のつくりたいもののイメージを膨らませるよう支援する。 ・鑑賞時には、友達や自分のよかったところを話したり、カードに記入したりし、それぞれのよさを確かめ合えるよう指導する。 ・児童の取組や作品のよさを肯定できるように言葉をかける。	・複数の題材を重複させることで、個人差に対応する。 ・題材が終わった児童が取り組めるような関連題材、補助題材を用意する。
5　年	・前学年までに経験した材料の組み合わせの感じを生かしたり、用具などの特性を生かしたりして、表し方を工夫する創造的な技能に個人差が見られる。 ・用具の扱いにも個人差があるので、個別指導が必要である。また、材料（量・質）を使いこなせない児童への支援も課題である。 ・取りかかるまでに時間のかかる児童がいる。意欲や発想に困難を示す児童への配慮が必要である。	・でき上がりの形だけにとらわれず、組み立てたり分解したり試行錯誤しながら、材料の組み合わせの特徴を生かしてつくるように支援する。そのためにも、材料を十分用意する。 ・用具の扱いに不慣れな児童には、個別指導や、グループで作業させながら、安全面には十分配慮する。 ・友達との交流を通して、自分なりの表し方が見付けられるように指導する。 ・スモールステップにし、取り組み内容を分かりやすくする。	・技能の習得に特化したミニ題材を用意する。 ・用具の扱いに不安を抱いている児童に対して、休み時間などに練習する時間をつくる。 ・工作題材において「検定」を設け、完成の先を目指せるようにする。 ・題材が終わった児童が取り組めるような関連題材、補助題材を用意する。
6　年	・前学年までに経験した材料の組み合わせの感じを生かしたり、用具などの特性を生かしたりして、表し方を工夫する創造的な技能に個人差が見られる。 ・材料や道具を自分勝手な方法で使用する児童が数名おり配慮が必要である。 ・鑑賞を自らの取り組みに生かす意識がさらにほしい。 ・他者と比べたり、思いと実際の表現に違いを感じ苦手意識を抱く児童がいる。	・試作しながら構想する際に、十分な個別支援を行い、個々の思いを共有しアドバイスする。 ・材料・用具の扱いについて再度確認し、ルールの徹底を図る。安全に配慮しながら適切に用具を使えるようにする。 ・鑑賞と表現のつながりが意識できる題材設定、ゲーム形式の鑑賞、鑑賞を行う対象の拡大を行う。 ・個々の得意とするところを自分で意識できるよう、取組の様子を見極め肯定する言葉掛けを行う。	・鑑賞と表現の一体化を図り、自ら振り返りを行えるようにして、自己解決につなげる。 ・前学年までの題材を、簡略化し用意しておくことで、振り返りと反復ができるようにする。 ・題材が終わった児童が取り組めるような関連題材、補助題材を用意する。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策　　教科名　体育　　小１５　練馬区立南町小学校

学　年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
１　年	・固定施設を使った運動遊びに、苦手意識をもつ子への指導が不十分である。 ・体つくり運動の時間は十分とれたが、経験が少ない児童への指導が不十分である。	・握力が弱い傾向にあるので、導入時に固定施設を使って遊ぶ時間を取り入れる。 ・日常的に自分から運動に取り組めるように学習カードを工夫していく。	・ペアや小グループで教え合う活動を取り入れ、練習する機会を増やす。
２　年	・固定施設を使った運動遊びに、苦手意識をもつ子への指導が不十分である。 ・ボールで遊ぶ経験が少ない児童への指導が不十分であった。 ・体の基本的な動きと総合的に身に付けさせる指導に課題がある。	・補助をするなどして、逆さになる感覚を養うとともに、恐怖心を取り除く指導を取り入れる。 ・指導計画に基づき体つくり運動を積み重ねていく。 ・準備運動などで、自分の体の調子、変化に気付けるような動きを入れ、感覚を養う。 ・捕球・投球時のコツを分かりやすく具体的に言葉掛けをしていく。	・鉄棒カードや固定施設などを取り入れることにより、休み時間等も教え合ったり、練習したりして、それらの種目にふれる機会を多くさせる。 ・友達の上手な捕球・投球の仕方を参考にさせ、教え合いながらボール遊びをさせていく。 ・集団による運動遊びを取り入れる。 ・休み時間に外遊びで体を動かせるように声をかける。
３　年	・運動に対する意欲や運動能力に個人差があり、個に応じた指導が不十分である。 ・体つくり運動の時間は十分とれたが、ボールを使ったゲームの時間が十分とれていない。	・個人のめあてを明確にし、そのめあてに沿って指導できるようにする。 ・めあてに合った練習の場を設定する。 ・グループ内でめあてを決めたり教え合ったりする機会をもつ。 ・学習カードを工夫していく。	・休み時間等には、練習カードを活用しながら練習できるようにする。 ・学年合同で課題別学習を取り入れる。
４　年	・器械運動の中で鉄棒に対する取り組みが消極的で、苦手意識の強い児童も多い。	・鉄棒の課題をスモールステップで設定し、取組意欲の喚起を図っていく。 ・休み時間、放課後の運動へと意識を高める。	・休み時間に外遊びで、進んで鉄棒に触れるようすすめる。また、登り棒や雲梯などをすすめていく。

	・柔軟性を高める運動に課題がある。	・準備運動の際にストレッチを十分行うようにする。	・休み時間も含め、なわとび・マラソンを継続して行い、毎日運動をしていく大事さを体感させていく。
5　年	・器械運動の中で鉄棒やマット運動に対する取り組みが消極的で、苦手意識の強い児童も多い。	・今もっている力で取り組んでみて、児童に課題を見付けさせた上で、自分の能力に適した課題を決めさせるようにする。 ・タブレットを活用して見付けたこつや分かったことを友達同士伝え合ったり、技ができるようになるための場や練習方法の工夫ができるようにする。 ・よい練習方法を広めたり、価値付けたりする。 ・やさしい場の設定、補助運動の工夫をする。	・運動そのものの楽しさに出会わせたり、味わわせたりする工夫をする。 ・思考力、判断力を高めていく指導を実践し、３つの資質、能力をバランスよく育む。
6　年	・体の成長に伴い、力強い動きができるようになってきた子、逆に今までできていた動きができなくなってきた子など個人差がある。	・体を動かすことを日常化できるようにする。体育で行ったことが休み時間でもやりたいと思わせる授業の工夫をする。 ・体力テストの結果をもとに、課題をもたせ、体力づくりや技能を高める。 ・技能面だけではなく、思考・判断面を伸ばす指導の工夫をする。（ルールや場など） ・よい動きとは何かを確認し、実践している児童を価値付ける。	・今もっている力で取り組んでみて、運動の楽しさや難しさを味わわせる。課題解決する中で学びに手応えを感じさせる。 ・３つの資質、能力をバランスよく育む。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策　　教科名　家庭科　　小１５　練馬区立南町小学校

学　年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
５　年	・活動に対して興味・関心は高いが生活の中での経験の差が大きく、個々への対応の仕方が課題である。 ・家庭での実践などへの支援が得にくい児童への対応が必要である。	・具体的に作業の仕方が理解できるように、実際に作業をして見せたり、映像を繰り返し見せたりする。 ・実生活の中にある題材を教材にして活用し、日常生活とのつながりを意識させる。	・行事や長期休業中の課題と関連させ、身に付いた技能と日常生活とのつながりを意識させる。 ・学習内容を家庭に知らせ、学習したことが家庭生活でも生かせるようにする。
６　年	・家庭での児童の仕事の役割分担が減っており、知識や技能などに個人差が大きい。技能を高めたり知識を深めたりするための十分な指導時間が必要である。	・実践・活動（実習）を多く取り入れ、技能を高められる実技の学習を増やす。特に被服実習については個人差が大きいため、個別の対応をしていくようにする。 ・実生活の中にある題材を教材にして活用し、日常生活とのつながりを意識させる。 ・ＶＴＲ等映像や具体物を活用する。	・実際に見たり体験したりしたものが、どの程度身に付いているのかテストなどで確認したり家庭学習として実践させたりすることで習熟の様子を見届け、意欲・関心が高まるように働きかける。 ・家庭での協力を得て、家庭での実践を定期的に実施する。